

# 斯文

第 二 十 一 編 第 九 號

昭和七年六月十五日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)  
昭和十四年八月廿七日印刷 昭和十四年九月一日發行

## 要 目

元清兩朝の支那統治政策

市村瓚次郎

服部隨軒先生追悼錄

阪谷 芳郎

井上哲次郎

宇野 哲人

鹽谷 溫

中山久四郎

飯島 忠夫

山口 察常

諸橋 轍次

高田 眞治

高瀬武次郎

今井彦三郎

古城 貞吉

小柳司氣太

鳥居 龍藏

秋月 胤繼

坪上 貞二

鱸 重康

佐久 節

今村 完道

手塚 良道

加藤梅四郎

馬場 春吉

菅谷軍次郎

佐藤 正範

目加田 誠

阿部 吉雄

勝又憲治郎

服部 繁子

服部 續

服部 佐

馬場 淑子

立田 清辰

立田 節子

賀來 順子

服部 武

文苑  
彙報

斯 文 會 發 行

泊 園(第四十號)  
國民精神文化(八月號)  
丁西倫講演集(八月號)  
東 華(百三十二集)  
東 亞(八月號)  
生活改善(八月號)  
學 苑(八月號)  
衛生新聞(第七百四、五號)  
弘 道(八月號)  
アカツキ(八月號)  
昭和の光(八月號)  
教 育(第六七九號)  
東洋文化(第百七十六號)  
新 更(八月號)  
中國文學月報(第五十三號)  
離 蟲(第二百八十八集)

崇聖道德報(第五號)  
詩 林(第二百二十一集)  
漢 詩(第六號)  
統 一(八月號)  
新書道(第一二七號)  
教化運動(第二百三十一、三號)  
護 國(第一二六號)  
漢詩春秋(第二十三卷第八號)  
國學院雜誌(第四十五卷第八號)  
哲學雜誌(第六百卅號)  
文化日本(第三卷第八號)  
大東文化(臨時號)  
日華學報(七月號)  
史學雜誌(第五十編第八號)  
支那時報(八月號)  
學士會月報(第六一六號)

報 告

○聖堂夏期修養會

第四回聖堂夏期修養會は、七月廿一日より廿六日まで六日間、毎日午前七時半より十時半まで、男子部は大成殿東廡、女子部は本會講堂に於て開催せり。開始第一日には一

同大成殿前に整列敬禮、孔子頌德歌合唱、鹽谷教化部長の開會の辭、濱野講師の訓話、直に講義に入る。講師は漢文普及講座講師之れに當りたるが、聴講兒童數は左の如し。  
本郷八。下谷二。小石川一五。牛込二〇。四谷三五。麻布三六。今戸五二。清島二三。濟美二七。藏前一四。麴町四。京橋一。明川八。計二四六。  
かくて廿六日修了式を挙げたるが、この日午前七時集合、聖堂清掃の勤務奉仕を爲し、少憩の上、同八時半より左記次第の如く式を行ひ、式後記念撮影をなしたり。

修了式次第

- 一、一同著席 一、敬 禮 一、宮城遙拜
- 一、君が代合唱 一、勅語捧讀 一、孔子廟禮拜
- 一、孔子頌德歌合唱
- 一、修了證書授與 總代 今戸校 種子部 警 濟美校 金子幸枝
- 一、教化部長訓話
- 一、講師訓話 一、修了兒童總代答辭
- 一、論語齊讀 一、敬 禮

○夏期講習會

本會第二十一回夏期講習會は、七月二十六日より三十一

日まで六日間、斯文會講堂に於て開催せり。講習科目は支那語並に支那時文、及び科外講演にして各講師熱心に講義講演せられ、聴講者亦連日緊張裡に聴講し、三十一日豫定の如く修了、正午修了式を挙げ、鹽谷教化部長より修了證書授與並に一場の挨拶あり、修了者總代増田多武呂氏答辭を述べ、式を終れり。

講師並に講義講演題目及び出席聴講者左の如し。

○講 義

支 那 語 東京帝國大學 魚 返 善 雄  
時 文 文學部講師 鹽 谷 溫

○講 演

顏元と山鹿素行 文學博士 小柳司氣太  
魂魄思想に就いて 文學博士 山口 察 常  
最近に於ける支那文化工作に就いて

○出 席 者

德永 珂月(滿洲)中馬 靜馬(東京)鈴木源二郎(千葉)  
椎木 眞一(東京)森脇 格(宮崎)新津 浩(東京)  
高橋平太郎(東京)和田 稔(千葉)矢島 清作(東京)  
山口 角鷹(東京)土谷彦一郎(山形)山本 四郎(新潟)

○編輯部會

八月十二日午後四時より本會會議室に於て例會を開く。  
高田部長、一戸、服部、川上の各委員出席、九月號の服部博士追悼の記事に就ては、萬遺漏なきやう協議を爲し、午後七時散會する。

東京文理科大学教授  
文部省検定試験委員

内野台嶺先生著

# 四書新釋 論語五口

上下全二冊  
菊判一千餘頁  
布裝上製函入

定價(上卷五圓、下卷五圓)也  
送料(内地六圓、外地四圓)也

◎明解なる現代的新釋  
◎卓越せる國漢指導書  
◎絶好なる吾人修養書

各節を原文・訓讀・語釋  
通釋・餘説に分ちて解釋す  
るに、從來の形を破り、四  
書全體の立場より再吟味し  
て正確明解適切な現代  
新釋を與へたるもの、四書  
入門者のみならず、吾人の  
必讀すべき修養書である。

☆四書新釋・大學

定價一圓七十錢  
送料十六錢

☆四書新釋・中庸

定價二圓五十錢  
送料十六錢

東洋倫理學史概説

山口察常著  
三三〇頁・六

明治初期文化史

清原貞雄著  
三三〇頁・六

史學及東洋史の研究

中山久四郎著  
三三〇頁・六

日本國民史

齋藤斐章著  
普及版 自由分賣

第一冊 菊判三〇〇頁  
定價二圓  
第二冊 菊判三二〇頁  
定價二圓

第三冊 菊判三二〇頁  
定價二圓  
第四冊 菊判四二〇頁  
定價二圓五十錢

## 斯文會ノ目的及事業

本會ノ目的ハ儒道ヲ主トシテ東亞ノ學術ヲ闡明シ以テ  
明治天皇ノ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ翼賛シ我カ國體ノ精華ヲ發  
揮スルニアリ

本會ノ事業ハ斯道ノ宣傳、漢文教育ノ振興、漢學ノ研究及學生ノ  
養成、學資ノ補給、先聖先儒ノ祭祀、湯島聖堂ノ保管、雜誌其他  
必要ナル圖書ノ編輯發行等ヲ爲スニアリ

### 本會役員

總裁	伏見宮博恭王殿下
會長	公爵徳川家達
副會長	男爵阪谷芳郎
同 公爵	徳川順人
總務	文學博士宇野哲人
會幹祭務	文學博士中山久四郎
同 庶務	文學博士山口蔡常
同 會計	文學博士福島甲子三
教化部長	文學博士鹽谷溫
教育部長	文學博士飯島忠夫
研究部長	文學博士諸橋徹次
編輯部長	文學博士高田眞治

本會會員ハ會費トシテ年額金四圓ヲ齎出スルモノトス但  
シ學生ハ半額トス

廣告料 (一頁 金十五圓  
半頁 金八圓)

昭和十四年 八月廿七日印刷  
昭和十四年 九月一日發行

(本號 定價 金參拾五錢)

編輯人 佐藤文四郎  
東京市豊島區目白町千五十七番地

發行人 福島甲子三  
東京市本郷區駒込神明町七十番地

印刷人 吉原良三  
東京市牛込區早稻田鶴卷町百七番地

印刷所 株式會社 康文社印刷所  
東京市本郷區湯島二丁目一番地湯島聖堂構内

發行所 財團法人 斯文會  
電話小石川(85)四六〇六番  
振替東京四五三〇番

賢文館

振替東京五一八〇  
電話九段三四四六

東京市神田區  
一ツ橋二丁目